

(新)循環資源定量的実態把握強化調査費

10百万円(0百万円)

廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室

## 1. 事業の概要

循環資源(廃棄物等のうち有用なもの)については、資源価格の高騰を反映した輸出の増加、多様化に伴う処理の困難化、不適正な処理による環境負荷の増大、循環的な利用後もなお残るものによる最終処分場の残余容量のひっ迫等様々な局面でさらに解決すべき課題が存在する。このため、これまでの第1次循環基本計画のフォローアップや第2次循環基本計画の検討等において不足していた、循環資源の種類や業種に応じた発生量、循環利用量等の状況や、速報化に資する把握手法の検討を行い、循環資源の国内外における定量情報を強化・拡充する。これにより、潜在的な循環利用の可能性を発掘し、より効率的な循環利用を促進する。

## 2. 事業計画

### (1) 循環資源の情報把握手法調査

産業界を交え、廃棄物情報の専門家や廃棄物関係業界等よりヒアリングを行い、循環資源の種類に応じた発生量とその循環的な利用及び処分の状況に加え、将来の見通し、循環資源の素材・組成・設計等の技術データ、循環資源の利用・処分に伴う環境影響等について、正確な情報を迅速に把握できる手法の検討を行う。

### (2) 廃棄物等の情報整備事業

得られた手法に基づき、廃棄物等の定量的な情報を整備し、的確な分析を行うことで、最終処分場の残余年数の将来予測や廃棄物等の発生抑制方策の検討等に活用する。さらに、循環資源の流れや環境負荷の分析により、最適な地域循環圏の規模の検討や低炭素社会、自然共生社会に向けた取組との統合に活用する。

## 3. 施策の効果

副産物の統計把握や業種別の産業廃棄物の統計をより正確に捕捉・理解することが可能となる。この結果、循環資源の循環的な利用をさらに進めべき業種の抽出や、積極的に廃棄物の発生抑制等に取り組んできた業種・そうでない業種の評価等が可能となる。

また、かねてより中央環境審議会循環型社会計画部会にて指摘されていた指標の速報化には、循環資源に関する情報の強化が不可欠であり、この指摘に十分に応える成果を得ることができる。

## 4. 備考

調査費

(内訳) 循環資源定量的実態把握強化調査

10百万円

# 循環資源に関する定量的な実態把握の強化

## 課題

- 1 循環資源の質的側面(発生状況、循環利用の実態、環境負荷、技術データ等)に着目した情報の不足
- 2 非廃棄物循環資源(副産物等有価物)に関する情報の不足
- 3 政府統計と民間公表の数字の乖離の拡大(実態把握が難しい分野の存在)

## 手段

- 1 検討会を開催し、産業界を交えた、廃棄物情報の専門家や関係業界からヒアリング
- 2 循環資源の発生量、循環的な利用及び処分の状況、将来見通し、循環資源の技術データ、環境影響等の把握
- 3 地域、個別品目、物量単位でのフローの把握、再使用・再生利用する循環資源の価値や用途等の把握

## 期待される成果

### 1 循環資源情報の質的拡充

副産物の統計把握や業種別の産業廃棄物統計のより正確な捕捉・理解  
→  
循環的利用をさらに進めるべき業種の抽出や、積極的に廃棄物の発生抑制等に取り組んできた業種・そうでない業種の評価等が可能に

取組が遅れている分野への施策の重点化等、より効率的・効果的でメリハリの効いた廃棄物・リサイクル政策の構築

### 2 循環資源情報の整備

廃棄物等の地域間移動・環境負荷等の定量情報の整備、的確な分析の実施  
→  
・最終処分場の残余年数の将来予測や廃棄物等の発生抑制方策の検討等に活用  
・最適な地域循環圏の規模の検討や低炭素社会、自然共生社会に向けた取組との統合に活用

### 3 指標の速報化と広域移動の実態把握